

原子力安全委員長 鈴木篤之殿
原子力安全・保安院院長 薦田康久殿

要 請 書

2008年9月24日
原子力政策「転換」議員懇談会
代表世話人 金田誠一

原子力政策「転換」議員懇談会には、原子力政策の進め方、原子力施設の安全性等に強い関心を寄せる国会議員約30数名が集い、省庁や専門家からのヒアリング、勉強会などを開催し、原子力問題への理解を深め、議論を行っています。

私たちは今般、六ヶ所核燃料サイクル施設ならびに東通原子力発電所、大間原子力発電所の耐震安全問題に関して、東洋大学の渡辺満久教授らのヒアリングを行いました。教授らのグループは、空中写真判読と六ヶ所村現地調査の結果などから、六ヶ所村の活構造、とりわけ核燃料サイクル施設東側の撓曲構造が今まで認識されていなかった地下の大きな断層の存在を示すこと、さらにこの構造と下北半島沖合にある大陸棚外縁断層との関連を指摘しています。この新知見は、今年5月に開催された日本地球惑星科学連合2008年大会において発表され、施設を抱える地元青森県では県民の大きな関心と呼んでおります。また教授らのグループは、この知見に関する論文を学術雑誌に投稿済みと伺っております。私たちは、教授らの指摘は、六ヶ所核燃料サイクル施設や東通原子力発電所、さらに大間原子力発電所など下北半島に立地する原子力施設の耐震安全上の重大な問題であると認識しております。

現在、「耐震指針」改訂に伴う耐震安全性の再評価、いわゆるバックチェックが全原子力施設を対象に原子力安全委員会、原子力安全・保安院で実施されております。私たち原子力政策「転換」議員懇談会は、新「耐震指針」とこのバックチェックが原子力施設の耐震安全を確保するため十分に機能を発揮するよう、原子力安全委員会、原子力安全・保安院に下記の三点を要請致します。

1. 渡辺満久教授らのグループが指摘する撓曲構造等の問題について、日本原燃や東北電力の耐震安全評価報告書には記載がなく、事業者の調査・評価が不十分である可能性が考えられます。それを証明するかのよう9月22日には日本原燃が六ヶ所村と隣り合う三沢市天ヶ森沖合で新たな活断層を確認した旨、公

表しています。原子力安全委員会、原子力安全・保安院においてバックチェックを行っている委員会等で、渡辺教授らの指摘する問題を審議・調査の対象として取り上げること。そのため教授らからのヒアリングを原子力安全委員会、原子力安全・保安院が行うこと。

- 2 . 青森県では六ヶ所再処理工場の稼働を目前にして、この耐震安全問題について県民の間に強い懸念があります。そのため、
バックチェックの審議・調査の内容についての報告を今までのような県幹部、議会への報告だけでなく、青森県民に対して行うこと。
六ヶ所再処理工場の耐震安全問題を審議している委員会、ワーキンググループ等の会合を青森県内で開催すること。
- 3 . 新「耐震指針」によって審査された大間原子力発電所の耐震安全問題についても、海成段丘の特異な状況が中田高・広島工業大学教授らから指摘され、審査の不十分性が懸念されます。大間原子力発電所の地質・地盤調査および耐震設計に関する特別委員会を設置し、安全審査の内容を再検討すること。

以上、要請いたします。